

10. 骨シンチグラフィで全身リンパ節描画を示した原発性アミロイドーシスの1例

伊藤 和夫 古舘 正従 (北大・核)

馬場 嘉美 種市 幸二

(北見赤十字病院・内)

アミロイドーシスとして診断され、7年間の経過観察中に骨シンチグラフィで全身リンパ節に集積を示した60歳男性について報告した。

心筋へのアミロイド沈着が疑われて施行した^{99m}Tcピロリン酸心筋シンチグラフィで、肺門および縦隔リンパ節に集積が観察され、その後、施行した^{99m}Tc-MDP骨全身シンチグラフィではさらに腹部傍大動脈、骨盤内、鼠径部、顎下部リンパ節に一致した集積を認めた。これらのリンパ節は、CTスキャンですべて石灰化を伴っていたが、下行結腸粘膜の石灰化部位には集積がみられず、また、アミロイド沈着が証明されていた胃、直腸にも集積はみられなかった。骨シンチグラフィはアミロイド本体ではなく活動的石灰化巣に集積する。

11. 肺癌の経過観察中に発症した横紋筋融解症の骨シンチグラフィ

塚本江利子 伊藤 和夫 古舘 正従

(北大・核)

清水 匡 白土 博樹(帯広厚生病院・放)

辻野 一三 (同・内)

肺癌の経過観察中に特に誘因なく発症した横紋筋融解症の骨シンチグラフィを経験した。症例は、58歳の男性。肺癌(腺癌)で経過観察中に腎障害、肝障害で入院した。入院後、脱力、肩の痛みで骨転移を疑って、骨シンチグラフィを施行したところ、右肩、右胸壁、両側大腿にび慢性の骨スキャン用剤の集積を認めた。検査したところ、CPK、アルドラーゼ、ミオグロビンの上昇があり、横紋筋融解症と診断された。その原因は、特定できなかったが、通常みられる外傷性のものは、考えられず、感染、多発性筋炎の合併、糖尿病など、非外傷性の原因によると考えられた。

12. DEXA法による健常者腰椎骨塩量の検討：主に第3腰椎側面計測について

丸岡 伸 山崎 哲郎 高瀬 圭

木下 俊文 三井 英明 坂本 澄彦

(東北大・放)

中村 護 (国立仙台病院・放)

DEXA法(Norland社製XR-26)を用いて健常者の第3腰椎側面(LAT)の骨密度(BMD)を前後面(AP)と比較検討した。対象は20歳代から60歳代までの健常者64例で、男性28例、女性36例である。APとLATそれぞれ同一症例の測定を6回行い求めた変動係数(CV)は、APで0.63%、LATで1.33%であった。L3-LATの男女の各年代別BMD値は、20歳代男性0.780(n=8)、女性0.597(11)、30歳代男性0.707(9)、女性0.668(8)、40歳代男性0.732(5)、女性0.610(6)、50歳代男性0.614(5)、女性0.490(8)であった。LATはAP同様女性では閉経後の低下が目だった。LAT値/AP値は、男性69.5±9.17%、女性57.0±7.06%と女性でより少なく、閉経後骨粗鬆症が問題となる女性では特に、LATによる海綿骨主体の椎体の計測が必要と思われた。

13. 肺癌患者骨シンチグラム腫瘍部MDP集積の組織型別検討

吉岡 清郎 福田 寛(東北大・抗研・放)

1985年4月より1990年10月までに行われた1,261人の、組織型を含めて確定診断のついた肺癌患者骨シンチグラフィに関し、骨シンチグラムで時に認められる腫瘍部RI集積について検討した。

肺癌患者骨シンチグラムにおける腫瘍部へのMDP・HMDP集積は、原発巣・転移巣ともに認められたが、肺癌組織型による相違が存在した。その出現頻度は、小細胞癌で最も高く9.7%(15/154例)を示し、以下大細胞癌7.1%(14/197例)、扁平上皮癌5.3%(23/435例)、腺癌0.6%(3/475例)の順で、腺癌では他の組織型に比し極端に低い出現であった。腫瘍部RI集積は、同一患者で原発巣・転移巣双方に認められたり、経過観察中の他部位出現があり、腫瘍組織のなんらかの性状を表す一つの所見であることが考えられた。